

# ジョブ型研究インターンシップ

## 【提案内容と今後の進め方】



文部科学省高等教育局



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

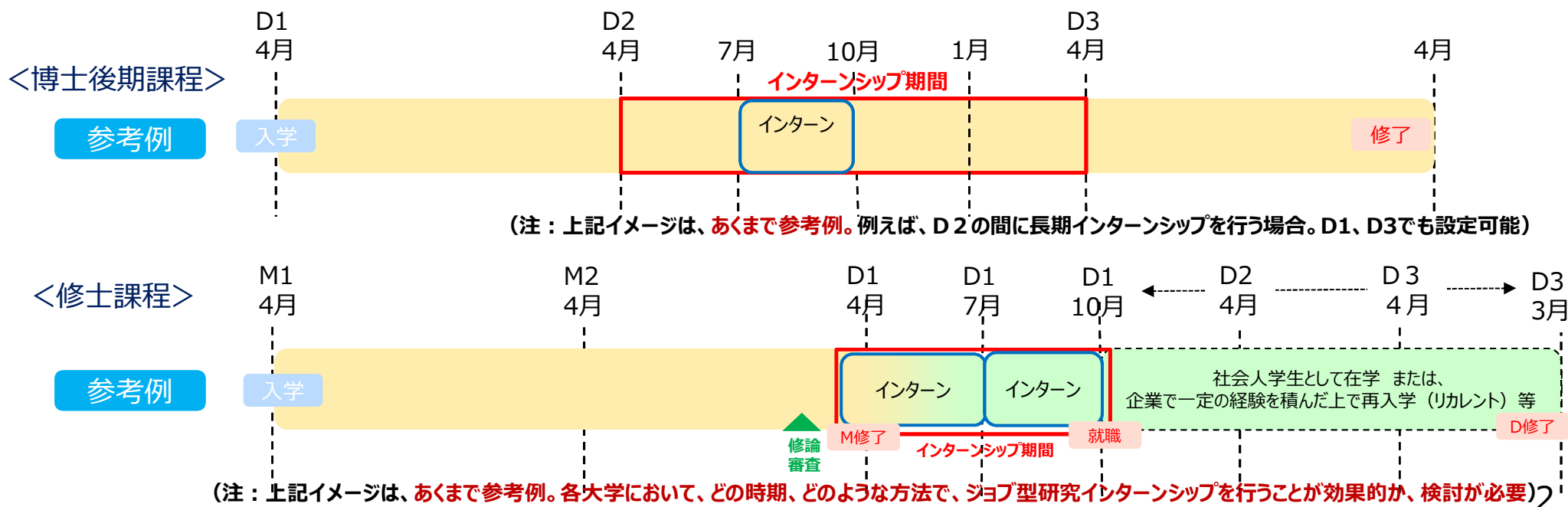
# ジョブ型研究インターンシップの概要

## 【背景】

「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」（令和2年1月総合科学技術・イノベーション会議）にて、『**企業との連携による長期有給インターンシップの推進**』、『**博士課程学生の長期有給インターンシップの単位化・選択必修化の促進**』が主要施策として位置づけられたことを踏まえ、**文部科学省**が内閣府、経済産業省の協力のもと、具体的なインターンシップ枠組み等を検討

## 【概要】

- ◆ 「**研究遂行の基礎的な素養・能力を持った大学院学生**」による「**研究インターンシップ**」。「**長期**」かつ「**有給**」で、企業のジョブ(職務)に挑戦・実践
- ◆ 大学院の正規課程(修士課程・博士後期課程)の教育プログラムに「**単位科目**」として位置づけ。希望する**学生の選択制**（「**選択必修科目**」）
- ◆ 本インターンシップは「**教育目的**」で行われるものであり、その**挑戦・実践の成果**については、**企業側も適切に評価**。また、博士後期課程学生のインターンシップは、その結果(学生情報)を**企業の採用選考活動に使用することが可能**なことから、企業の「**ジョブ型採用**」との**円滑な連結**を期待



# ジョブ型研究インターンシップの目指す効果

## ◆ 学生：

質の高い「ジョブ型研究インターンシップ」の実施により、**Society5.0時代の産学共同教育**を実現し、**学生の能力伸長（より実践的な経験や新たな気づき）とキャリアパス多様化（活躍の場拡大）**に資する。

## ◆ 大学：

学生のキャリア形成等の観点から、修士課程・博士後期課程の**教育プログラムの中に位置づけて活用**することで、**研究力の強化、大学院教育の実質化**を図る。

## ◆ 企業：

学生の発想を生かして、**研究開発の加速や新たなイノベーションを創出**。Society5.0時代のダイバーシティ経営と採用・雇用の多様化・複線化を見据え、「**ジョブ型採用**」との**円滑な連結**を図るとともに、**企業の研究開発現場等に適応する能力の高い、優秀な人材を確保**することで、**産業技術力の強化**に資する。

## ◆ 国全体：

大学院段階の**インターンシップ効果を最大化し、産学協働で我が国の研究力、イノベーション力を強化**する（修士課程は就職・採用活動の早期化・長期化による影響等への対処）。



# ジョブ型研究インターンシップの今後の進め方

## 《基本的な考え方》

◆ **研究遂行の基礎的な素養・能力を持った大学院学生による、質の高い研究インターンシップ**を実施

◆ まずは、産学において研究インターンシップの実績がある**博士後期課程から積極的に実施**

※ 修士課程については、学生のキャリア形成、研究力強化の観点から、大学院の正規課程の教育プログラムの中で、どの時期に、どのような方法で組み込むことが最も効果的か、各大学にて検討

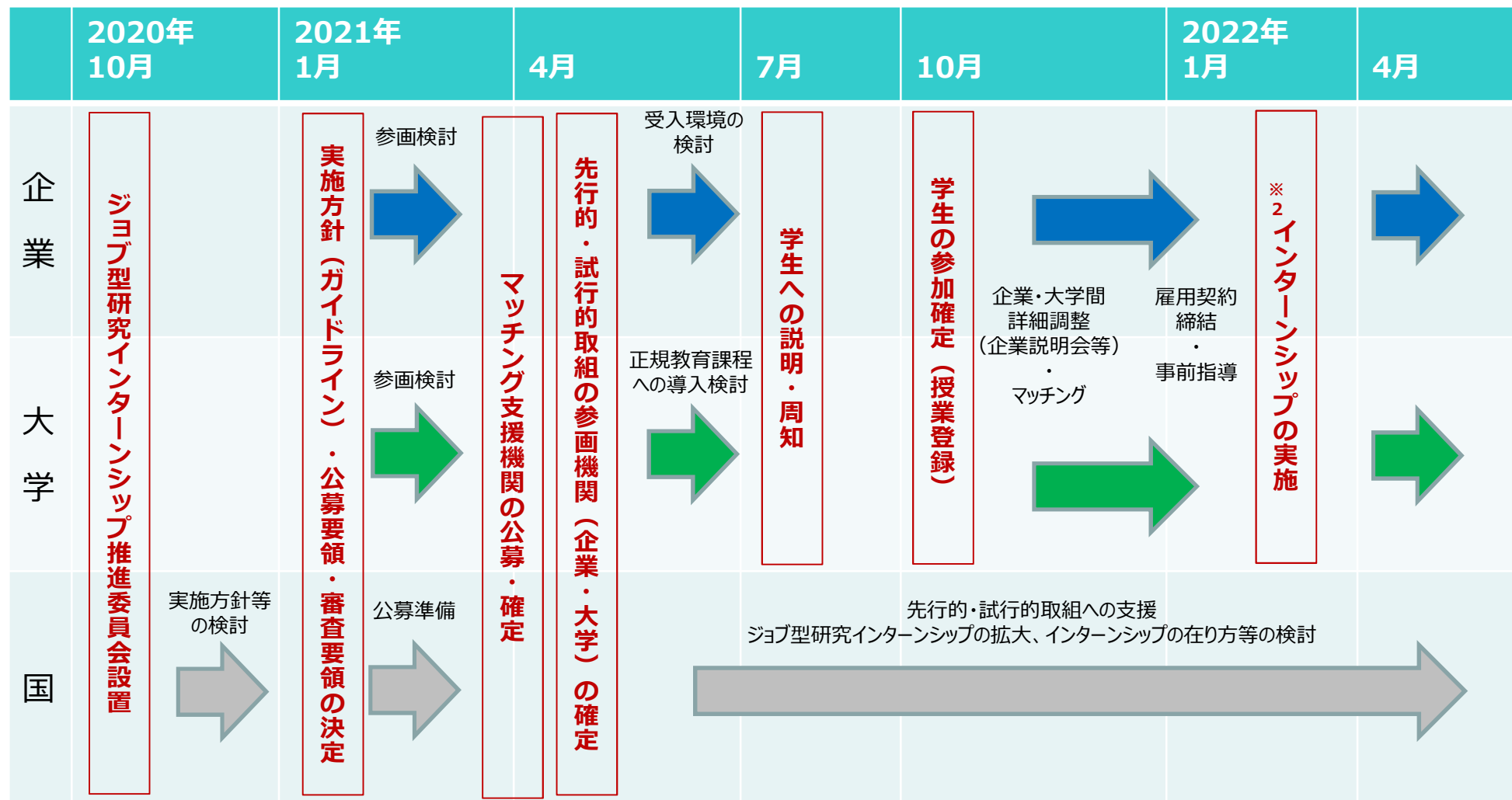
◆ 「学生」・「企業」・「大学」のメリットが最大化され、エコシステムとして機能させる観点から、**先行的・試行的な取組を行いながら検証・改善を重ねていくアジャイル型の手法で実施**

☆ **先行的・試行的な取組**として、**導入を志向する個別企業と大学（群）において検討し実施**（分野は、理学・工学・情報学等を想定）

- 具体的な検討を進める**協議の場**（ジョブ型研究インターンシップ推進委員会（仮称））**を創設**し、検討開始
- インターンシップの**マッチング等をサポートする団体の公募、決定**
  - － 複数企業×複数大学によるインターンシップ学生の適切なマッチング
- インターンシップの**「実施ガイドライン」**の策定



# ジョブ型研究インターンシップ 今後の想定スケジュール (先行的・試行的取組)



関心表明機関数（令和2年6月30日時点）  
 企業：52企業+4団体  
 大学：69大学

※1上記スケジュールは、現時点での想定  
 ※2正規課程に位置づけられている大学から先行的・試行的に実施

# 「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」(報告書) Society 5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方 (抄)

参 考

## 短期 新たな理解に基づくインターンシップの推進

### ③大学院修士・博士を対象とする、ジョブ型採用につながるインターンシップの試行的実施

- 修士・博士の現状について大学側から以下の指摘がなされた。
  - (主として理工系) 修士に関しても、就職・採用選考活動の早期化が、教育や研究にマイナスの影響を及ぼしている。
  - 人文社会科学系の大学院生は、企業による採用が少なく、欧米と比較して低学歴社会となっている。
- 一方、Society 5.0を想定する場合、新たな分野に挑戦しイノベーションを起こす人材には、大学院以上の専門性が望ましい。また大学院で専門性を身に付けた人材は、ジョブ型雇用にも親和性が高い。



- ◆ 大学院生を対象とするジョブ型採用につながるインターンシップを、参加希望の大学と企業にて試行する。

#### 提案1 (日本私立大学団体連合会) ジョブ型採用インターンシップ (修士2年)

##### 【概要】

- 大学院で学修した専門性を評価し、採用後は特定のジョブに就くこと (ジョブ型採用) を前提とするインターンシップ
- 研究テーマが決定する修士課程2年生以降の長期休暇期間に実施 (大学研究室が関与し、正課として実施するものはこの限りではない)
- インターンシップの内容は、大学の正課に相当するようなインターンシップの要件 (内容、実施時期、実施期間、学生評価のフィードバック等) を備えていることが必要

#### 提案2 (文部科学省) ジョブ型研究インターンシップ (修士・博士)

##### 【概要】

- 研究遂行の基礎的な素養・能力を持った大学院生による研究インターンシップ
- 長期 (例: 概ね2か月以上) かつ有給で企業のジョブ (職務) に挑戦・実践する
- 大学院の正規課程 (修士課程、博士後期課程) の教育プログラムに位置づけ、希望する学生の選択必修科目
- インターンシップの結果を企業の採用選考活動に使用可能とし、企業のジョブ型採用との円滑な連携を図る
- 実施時期は、各大学が教育プログラムの中で決定

(出典:採用と大学教育の未来に関する産学協議会・報告書(2020年3月31日)の概要より)



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 大学院段階の「研究インターンシップ」事例①

## 大阪府立大学『イノベーション創出型研究者養成Ⅲ』（TECⅢ）

- イノベーションを創出する人材育成を目的とした教育カリキュラム
- 企業研究を実践する**大学院共通教育科目（博士後期課程）**として**約3か月間**の研究インターンシップを実施
- 履修後には企業の評価と本人のレポートを踏まえて、**単位を認定**
- 平成20年以降、単位認定した学生55名（博士課程在学者の約10%）のうち、**約8割の学生が企業に就職**
- 海外企業も含む約100社が受入可能

**（企業）IMEC（ベルギー）、株式会社カネカ、堀場アドバンテクノ、東レ(株) など**



（大阪府立大学高等教育推進機構高度人材育成センターホームページより作成）



# 大学院段階の「研究インターンシップ」事例②

研究遂行の基礎的な素養・能力を持った学生が研究開発等の現場の実務を経験することで、「学生」、「企業」の双方に新たな気づき、アイデアが生まれ、研究開発の加速やイノベーション創出につながる

- 大学院（生物専攻）、博士後期課程 1年・女性
- 実施期間：2018年8月～10月（約2か月間）
- 受入企業：株式会社リコー
- テーマ：遺伝子検査における1分子検出能向上に関する研究



- メンターの方と一緒に研究を進め、後半はとくに、私が自分で考えて「こういう実験をした方がいい」というようなことを提案していくような形で、実際に最初にたてられていた計画と違うことをした。
- 研究や実験の進め方に関しては、企業と大学とで、そこまで大きな違いはないと感じたが、ただ、時間の感覚に違いがあった。
- 色々なキャリアを持った方のお話を聞ける機会も多かったため、今後のことを考えていく上でとても参考になった。

## 【企業の視点】

- ディスカッションをかなり密にとっており、そのなかで多くのアイデアが生まれた。前半も、彼女から色々な提案を頂いて、それで改善できた部分もありました。



- 大学院（物理専攻）、博士後期課程 2年・男性
- 実施期間：2018年12月～2019年2月（約2か月間）
- 受入企業：三菱重工業株式会社
- テーマ：ガスタービン燃焼安定性予測手法の開発



- 時間管理に対して、考え、取組みが変化した。企業の研究は、限られた予算に応じて従業員の働ける時間が決まる。
- 進捗管理用のノートを1冊作り、そこに優先順位をつけながらタスクを書いて更新していった。大学ではやってなかったことだが、頭の整理にもなり非常に良かった。
- インターンシップは、未知の分野でこれまで大学で身に付けた研究態度を活かす「挑戦の場」だと思う。

## 【企業の視点】

- 理論的なところについては、まだまだ需要がある。大学で培った理論展開能力、あるいは（実験手法の検討などの）専門知識を直接活かしたい方には、ぜひ来ていただきたい。抱えていた課題を大きく前進させることが出来た。

